

平成25年度下半期指定管理者管理運営状況シート

様式3

●施設の概要

施設名	岐阜市少年自然の家	所管課	教育委員会 青少年教育課
所在地	岐阜市山県北野2081番地		
指定管理者名	公益財団法人 岐阜市教育文化振興事業団		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日		
選定方法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input checked="" type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	127,172,000円		
施設の設置目的	少年が自然に親しみ、自然の中で集団宿泊生活を通じてその情操や社会性を豊かにし、心身を鍛練し、もって健全な少年の育成を図る		
施設概要	宿泊棟、キャンプ場、多目的室、研修室(4)、音楽室、和室、クラフト室		

●利用状況

	H25 下半期	H25 上半期	H24 下半期	H24 上半期	H23 下半期
利用者数(単位:人) 団体数(単位:団体)	10,153 281	17,258 545	10,183 270	15,764 541	11,132 280
開所日数(単位:日)	139	157	144	152	143
団体利用可能日数(単位:日) ※1	136	157	140	152	139
団体利用実績日数(単位:日)	131	156	124	150	126
施設稼働状況(単位:%) ※2	96.3	99.4	88.6	98.7	90.6

※1 【開所日数】-【施設メンテナンス等により利用できない日数】 ※2 【団体利用実績日数】÷【団体利用可能日数】

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①供用日・供用時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応	①岐阜市少年自然の家条例施行規則第2条、第2条の2の規定を遵守している。 ②指定管理者仕様書1-(1)-①に基づき、適切な人員配置、人員管理を行っている。 ③新聞、ラジオ、ホームページ、パンフレット、チラシ等を活用し、多様な広報活動を行っている。また、主催事業、出前講座等への参加者に直接広報活動を行っている。 ④所独自のモニタリングシステムを構築し、迅速かつ丁寧な対応を行っている。
指定事業自主事業	○受け入れ事業を実施 ○下記主催事業を実施 ①家族のつどい ②子どものつどい ③市民のつどい	○受け入れ事業 ※カッコ内は対前年度比 ・270団体8,131人の小中学校、特別支援学校、青少年団体等を受け入れ(11団体94人増) ○主催事業 ※カッコ内は対前年度比 ①家族のつどい…4事業(7回)に177家族546人が参加(21家族24人増) ②子どものつどい…2事業に103人が参加(22人増) ③市民のつどい…1事業に1,340人が参加(160人減)

<p>指定事業 自主事業</p>	<p>○研修・啓発事業を実施</p> <p>○研究・開発事業を実施</p>	<p>○研修・啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他施設との共催事業、事業協力、出前講座 ・「自然の家だより」「季節の散策マップ」の発行 ・岐阜市自然・環境活動情報サイト「ぎふネイチャーネット」への投稿 ・自主企画事業として次の事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ①「第2回三輪の里自然散策会」(3月に実施) ②「子ども土曜セミナー」(ドリームシアター岐阜との共催事業 11月に実施) ③「クリスマスコンサート」(岐阜市生涯学習センターへの事業協力 12月に実施) <p>○研究・開発事業(別紙1のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規「活動解説資料」(冊子)の作成 ・「自己課題」への取り組み ・各種職員研修の実施と参加 ・周辺の動植物調査及びデータ収集
<p>施設管理</p>	<p>①日常・定期清掃業務</p> <p>②ハチの巣調査、駆除</p> <p>③空気環境測定</p> <p>④飲料貯水槽清掃点検</p> <p>⑤水質検査</p> <p>⑥ねずみ・害虫等生息調査</p> <p>⑦煤煙測定</p> <p>⑧空調設備保守点検</p> <p>⑨給湯関係設備保守点検</p> <p>⑩地下オイルタンク保守点検</p> <p>⑪自動制御設備保守点検</p> <p>⑫給排水衛生設備等保守点検</p> <p>⑬浄化槽保守点検</p> <p>⑭昇降機保守点検</p> <p>⑮消防設備保守点検</p> <p>⑯非常通報装置保守点検</p> <p>⑰カリヨンの鐘保守点検</p>	<p>①日常・定期清掃業務:【日常】開所日は毎日実施 【定期】12月・3月に実施</p> <p>②ハチの巣調査、駆除:9月に実施済</p> <p>③空気環境測定:11月・1月・3月に実施</p> <p>④飲料貯水槽清掃点検:2月に実施</p> <p>⑤水質検査:2月に実施</p> <p>⑥ねずみ・害虫等生息調査:10月・12月・2月に実施</p> <p>⑦煤煙測定:1月に実施</p> <p>⑧空調設備保守点検:毎月実施</p> <p>⑨給湯関係設備保守点検:毎月実施</p> <p>⑩地下オイルタンク保守点検:1月に実施</p> <p>⑪自動制御設備保守点検:毎月実施</p> <p>⑫給排水衛生設備等保守点検:11月・2月に実施</p> <p>⑬浄化槽保守点検:10月・11月・3月は週1回実施 12月・1月・2月は2週間に1回実施</p> <p>⑭昇降機保守点検:毎月実施</p> <p>⑮消防設備保守点検:2月に実施</p> <p>⑯非常通報装置保守点検:毎月実施</p> <p>⑰カリヨンの鐘保守点検:3月に実施</p> <p>職員による主な施設点検(整備)</p> <p>【館内外点検】団体の退所時、休所日前の夕、休所日後の朝に実施</p> <p>【キャンプ場】団体の利用前、利用後及び暴風雨後に実施</p> <p>【散策道】随時実施(下半期45回)</p>

<p>施設修繕</p>	<p>下記の観点からの修繕実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速な修繕の実施 ・指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備 	<p>○迅速な修繕の実施例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラフト室前トイレの扉の鍵が、小さな子にはかたく、動かせない。 ⇒現場を確認後、鍵が円滑に動くよう調整 ・施設周辺に大きな枯れ木(マツ)があり、倒木の危険性がある。 ⇒公園管理者に連絡後、直ちに枯れ木を伐採 ・池を囲うロープが弛んでいて危険である。 ⇒公園管理者に連絡後、鉄の杭を打ち直し、新たにロープを設置 <p>○指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備の実施例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園外も含め30km以上ある散策道の整備 ・施設周辺、キャンプ場の植木剪定、間伐、草刈り ・ナイトハイコース(公園内・阿原沖)の整備 ・施設周辺及び散策道のハチの巣駆除 ・施設周辺の案内看板補修、製作 ・施設前坂道の車止め製作、設置 ・宿泊室ドアクローザーの交換 ・宿泊室及び本館棟内の網戸補修 ・キャンプ場屋根付き広場の高所照明器具交換 ・クラフト、野外炊事等、体験活動に関わる各種備品の修繕・整備 ・岐阜ファミリーパーク体育館の体育倉庫整理棚及びバリアフリー板の製作、設置(施設間協力)
<p>危機管理・法令遵守</p>	<p>①個人情報の保護</p> <p>②非常時の対応策</p> <p>③関係法令の遵守</p>	<p>①(公財)岐阜市教育文化振興事業団「個人情報保護規程」に基づき、適切に事業運営を行っている。また、「公表事項等に関するご案内」を受付窓口に掲示し、規程に基づく事業運営について、市民への理解を求めていくとともに、全職員に周知徹底を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、個人情報に関するデータは、専用のUSBメモリで集中管理しており、USBメモリは常時耐火金庫で保管している。また、主催事業の応募はがきは、事業終了後、速やかにシュレッダーで裁断し、破棄している。 <p>②緊急時対応マニュアルの改善を図り、全職員に周知徹底している。また、3月に普通救命講習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事や川での活動は、複数の職員を配置し、安全確保の強化に努めている。 ・緊急地震速報受信装置の設置にともない、対応マニュアルを作成するとともに、館内掲示板やビラなどの整備に努めている。 ・職場全体の防災意識を高め、非常時の対応に備えるため、防災士の資格を有した職員(上半期に取得)から、防災対策について学ぶ機会を積極的に設けている。 ・キャンプ場での宿泊利用がある場合は、警備員による巡回のほか、地元交番に夜間巡回を依頼するなど、防犯対策の強化に努めている。 ・ハチ(スズメバチなど)については、適宜、職員が山中を点検している。巣を発見した場合は、利用団体に情報を提供するとともに、職員が迅速に駆除している。 ・岐阜県クママップ(県ホームページ)を活用し、クマ出没に関する情報の収集に努めている。また、10月～12月期間の利用団体が野外活動で山に入る場合は、指導者に情報を伝えるとともに、利用者に「クマ鈴」を携帯させるなどの安全対策を講じている。 <p>③岐阜市少年自然の家条例、岐阜市少年自然の家条例施行規則等、関係法令を遵守している。</p>

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>○受け入れ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用者アンケート」…すべての利用団体の指導者を対象 ・質問内容:施設設備、職員の対応、食堂での食事の3項目 <p>・自然の家利用(野外学習)にかかる調査…市内小学校の児童を対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問内容:利用後の変化について15項目 <p>・聞き取りによる調査…下記の機会に利用者に対し要望等の聞き取りを実施 (利用前) 指導者・引率者を対象とした各種研修会、事前打合せ会、下見対応時 (利用中) 各活動に対応している職員による聞き取り(常時) 指導者と宿直職員との打合せ会(毎日、夜間)</p> <p>○主催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「参加者アンケート」…すべての主催事業で実施 ・質問内容:参加動機、満足度など <p>・聞き取りによる調査…事業の実施中、各活動に対応している職員や施設ボランティアが、参加者から直接、要望等の聞き取りを行っている。</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>○受け入れ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用者アンケート」 ①回収枚数 105枚 【項目】満足(5点) やや満足(4点) 普通(3点) やや不満(2点) 不満(1点) ※ただし、今期の期間中にアンケート様式の見直し、改善を行い、3月より評価項目を[大変満足・満足・普通・不満・大変不満]に変更したため、3月分の数値は下記のように置き換え、全体の数値に反映している。 ・平均(点):大変満足・満足(5点) 普通(3点) 不満・大変不満(1点) ・割合(%):大変満足・満足⇒満足 不満・大変不満⇒不満 ②初回利用 19枚 「施設・設備」(平均4.89点) 満足89% やや満足11% 普通0% やや不満0% 不満0% 「職員の対応」(平均4.89点) 満足95% やや満足0% 普通5% やや不満0% 不満0% 「食堂の食事」(平均4.33点) 満足61% やや満足11% 普通28% やや不満0% 不満0% 【主な意見】 ・とても親切、丁寧に対応していただき、子どもたちにも笑顔が見られた。 ・きれいな施設なので、とても快適に過ごすことができた。 ・所員の電話対応が大変素晴らしい。 ※その他好意的な意見多数 ③複数回利用 86枚 「施設・設備」(平均4.82点) 満足89% やや満足8% 普通5% やや不満0% 不満0% 「職員の対応」(平均4.99点) 満足99% やや満足1% 普通0% やや不満0% 不満0% 「食堂の食事」(平均4.42点) 満足63% やや満足18% 普通18% やや不満1% 不満0% 【主な意見】 ・施設がいつも整然としている。美しく保たれている。 ・所員の活動の説明がわかりやすく丁寧。子どもたちの気を引くアイデアもあった。 ・食物アレルギーの対応がとても丁寧で助かった。 ※その他好意的な意見多数 <p>・聞き取りによる調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムの組み方のほか、防寒対策、ハチ・ヘビ対策など、活動における安全上の留意点についての質問、要望が多数である。 ・雨天や降雪などにとまらぬ活動プログラム及び活動場所に関する質問、要望もある。 <p>・「自然の家利用(野外学習)にかかる調査」</p> <p>【調査の対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月以降に自然の家を利用した市内小学校の児童(14校 1,163人) <p>【調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習後の自分が変化したと回答した割合が、15項目中11項目で80%を超えている。 ・上位3項目は以下のとおりである。学校が重視している「協力」「主体性」「規律」(昨年度調査)との関連性があり、学校のねらいが具現された結果となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と一緒に協力すること(協力) ・自分の役割を最後までやり遂げること(主体性) ・決まりやルールを守ること(規律) <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の達成感(変化したと感じる割合)はかなり高く、教育効果の高い野外学習が実施できていると捉えている。

利用者アンケートの
実施結果

- 主催事業
 - ・「参加者アンケート」
 - 【家族を対象とした事業】
- ファミリーDAY デイキャンプ編(1日 2回)
 - ①回収枚数 37枚
 - ②初めて参加 27枚
 - 【事業への満足度】 満足96% やや満足4% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・子どもが生き物について興味をもった。スタッフの方に自ら質問する姿を初めて見た。
 - ・散策のクイズが楽しく、「次は何だろう」とワクワクしながら歩けた。火おこし活動も、子どもが最初から最後まで全部やってくれて、満足げな顔をしていたのが印象的だった。
 - ※その他好意的な意見多数
 - ③複数回参加 10枚
 - 【事業への満足度】 満足100% やや満足0% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・1日ゆったりとした行程なので、無理がなくてよい。
 - ・木の実を見つけるのがすごく早くなった。
 - ※その他好意的な意見多数
- ファミリーDAY ウォークラリー編(1日)
 - ①回収枚数 14枚
 - ②初めて参加 5枚
 - 【事業への満足度】 満足100% やや満足0% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・道案内をしっかりと努める子どもの姿があった。期待以上の内容だった。
 - ・給水ポイントの温かい飲み物が有難かった。
 - ※その他好意的な意見多数
 - ③複数回参加 9枚
 - 【事業への満足度】 満足100% やや満足0% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・2歳半の子どもが意外にもたくさん歩けた。成長を感じた。
 - ・子どもにコースを任せて迷ったが、よい体験ができた。
 - ・木の実を食べる体験が初めてだったので、子どもには新鮮だったと思う。
 - ※その他好意的な意見多数。
- ファミリーステイⅠ(1泊2日 2回)
 - ①回収枚数 55枚
 - ②初めて参加 21枚
 - 【事業への満足度】 満足95% やや満足5% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・大人も子どももとても楽しめる、他ではできない素敵な内容だった。スタッフの方の笑顔、子ども目線、穏やかな声かけ等、子育ての先生のように勉強になった。
 - ・ナイトハイクは宿泊しないと体験できないので、面白かった。
 - ・自然散策の時、子どもが地図を見ながら自分で進めること、長い距離を歩けるようになったことなどがわかり、成長を感じた。
 - ※その他好意的な意見多数
 - ③複数回参加 34枚
 - 【事業への満足度】 満足94% やや満足6% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・毎回、食物アレルギーに対応してもらえて有難い。安心して食べることができる宿泊施設だ。
 - ・ナイトハイクの時、子どもがランタンで足元を照らして、親を気遣ってくれた。
 - ・親子で一緒に物を作り、歩き、発見し、自然を肌で感じる時間が大事だと思う。
 - ※その他好意的な意見多数
- ファミリーステイⅡ(1泊2日 2回)
 - ①回収枚数 42枚
 - ②初めて参加 12枚
 - 【事業への満足度】 満足92% やや満足8% やや不満足0% 不満足0%
 - 【主な意見】
 - ・子どもが来年度、学校の野外学習で利用するので参加したが、楽しんでいた。
 - ・レクリエーションでは、小学校の時に戻った気分で無邪気に遊ぶ自分と主人がいて、とてもよい思い出になった。
 - ・初めて自然の中でテレビの無い時間を過ごした。子どもは毎日ゲーム三昧だが、ゆったりとした仲間とのかかわりの中で、「時間」を考える機会になった。
 - ※その他好意的な意見多数

利用者アンケートの
実施結果

- ③複数回参加 30枚
【事業への満足度】 満足93% やや満足7% やや不満足0% 不満足0%
【主な意見】
- ・施設が広いので、子どもが歩き回って楽しんでた。
 - ・すべての活動がチーム対抗だったので、結束して楽しかった。子どもも子ども同士で遊んでいた。
 - ・クイズやゲームなど、どれも勉強になって楽しく、夢中になれた。子どもの笑顔がたくさん見られた。
- ※その他好意的な意見多数
- 【子どもを対象とした事業】
- 自然は友だちキャンプ 森遊び隊(1泊2日)
- ①回収枚数 41枚
- ②初めて参加 22枚
【事業への満足度】 また参加したい100% 参加したくない0%
【主な意見】
- ・ナイトハイクは、虫の声や鳥の鳴き声がよく聞こえたので、楽しかった。
 - ・初めは緊張してうまく話せなかったけど、グループのみんなと友だちになれたので、参加してよかった。
- ※その他好意的な意見多数
- ③複数回参加 19枚
【事業への満足度】 また参加したい100% 参加したくない0%
【主な意見】
- ・ウォークラリーでは、みんなで協力してクイズを解くことができた。
 - ・野外炊事で、みんなと一緒にご飯を作ったことが心に残った。
- ※その他好意的な意見多数
- 自然は友だちキャンプ 冬遊び隊(1泊2日)
- ①回収枚数 62枚
- ②初めて参加 17枚
【事業への満足度】 また参加したい100% 参加したくない0%
【主な意見】
- ・グループのみんなと、一緒に歌を歌ったりして楽しかった。
 - ・初めてのキャンプファイヤーが楽しかった。
- ※その他好意的な意見多数
- ③複数回参加 45枚
【事業への満足度】 また参加したい98% 参加したくない2%
【主な意見】
- ・青色に染まる実が、とてもきれいだった。
 - ・野外炊事をして、改めて親の手伝いをしたいと思った。
- ※その他好意的な意見多数
- ・聞き取りによる調査
- ・活動プログラムやその具体的な内容についての質問、要望が多数である。
 - ・食物アレルギーへの対応に関する質問が増えている。
 - ・家族を対象とした事業では、家族構成に応じた指導・支援の要望がある。(未就学児への対応等)

利用者からの
要望・苦情と
対処・改善

○受け入れ事業

入所から退所まで、各活動に必ず担当職員を配置しているため、意見等に対しては、担当職員が直接本人に回答している。また、宿直職員と団体指導者との打合せ会(毎日、夜間)、退所時(精算時)等に、団体指導者へ施設としての考え方を説明している。

利用者全般に関わる内容については、ホームページを活用し、意見等に対する考えや対応について回答している。

【主な意見と対応】

- ・多少遅くなくても、食事のおかずが温かいとよい。(初回利用)
⇒利用団体に対し、「事前打合せ会」、オリエンテーション等を通じて、下記の内容を伝えている。
 - ・複数団体が食堂を利用している場合は、衛生管理の観点から食事の開始時間を変更できないこと(団体ごとに設定できない)
 - ・食事の開始時間を考慮して、ゆとりのある活動計画を立案していただくこと
- ・暖房の調節が各部屋できるとよい。(複数回利用)
⇒利用団体に対し、「事前打合せ会」、オリエンテーション等を通じて、下記の内容を伝えている。
 - ・空調関係は事務室で集中管理を行っていること
 - ・施設の構造上、宿泊室ごとの温度調節はできないこと
 - ・要望に応じて、フロアごとのON/OFFで対応していること
- ・野外炊事後片づけのチェックが厳しすぎる。(複数回利用)
⇒研修会や「事前打合せ会」を通じて、利用団体の指導者・引率者に対し、チェックのポイントや教育効果・意義を説明し、理解を求めている。

○主催事業

開始から終了まで、各活動に必ず担当職員を配置しているため、意見等に対しては、担当職員が直接本人に回答している。また、必要に応じて各事業の「終わりの会(全体会)」で、施設としての考え方を説明している。

事業全般に関わる内容については、係会、所内経営会議、職員会議を経て検討を重ね、次回の事業や次年度の事業のよりよい運営に活かしている。

【主な意見と対応】

- ・夜、宿泊室が乾燥する。(初めて参加)
⇒オリエンテーション時に、濡れタオル等を部屋の中に掛けておくなどの対応策を説明している。
また、貸出し用の加湿器を揃えており、希望があれば貸し出している。
- ・親子で参加したが、自然散策の距離が小さな子どもには長い。(初めて参加)
⇒活動プログラムは、年齢層に対応できるよう工夫している。また、各家族のペースで無理なく活動していただくよう、活動前に説明している。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	I 住民の平等 利用が確保 されること	(1)『住民の平等利用が確保されること』に対する基本的な考え方(理解度、取組姿勢など)	①利用調整委員会を開催し、利用調整を行っているか。 ②主催事業において、幅広い市民への参加の機会と周知を図っているか。	SS	SS	SS
		(2)平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	①障がい者を含め幅広い層の利用を促すため、ソフト面での配慮を推進しているか。	A	A	A
		(3)情報公開、広報の方策	①市内小中学校、市内少年団体、当年度利用諸団体に対する次年度への呼びかけ及びホームページ等も含めた紹介・啓発をしているか。	S	S	S
		(4)個人情報保護するための方策	①個人情報保護規定を制定し、個人情報の保護や情報公開の取り扱いについて、十分配慮しているか。	A	A	A
		区分評価				
効果性	II 事業計画書 の内容が、 対象施設の 効用(設置 目的)を最 大限発揮す るものである こと	(1)『事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること』に対する基本的な考え方(理解度、取組姿勢など)	①「岐阜市少年自然の家運営方針」とおり「ほほえみ、なかま、自然」を大切に施設運営をしているか。	A	A	A
		(2)既存業務の改善、工夫又は新規の魅力的な提案の有無、内容	①主催事業等の活動プログラムの改善を図っているか。	S	S	S
		(3)利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	①利用者・団体に対してアンケート調査を行い、結果を集約し、改善に努めているか。	S	S	S
		(4)利用者に対するサービス向上の方策	①利用団体の活動に対し、可能な限り職員を配置し、適切な指導・援助を行っているか。	SS	SS	SS
		(5)利用促進、利用者増の方策	①利用者の少ない冬季を含め、事業の充実等により利用の促進に努めているか。	S	S	S
		(6)施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	①利用団体の活動に合わせ、必要に応じ宿直、夜勤、通常勤務、週休等を割り振り対応しているか。	A	A	A
		区分評価				

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
効率性	Ⅲ 事業計画書の内容が、管理経費の削減が図られるものであること	(1)『事業計画書の内容が、管理経費の削減が図られるものであること』に対する基本的な考え方(理解度、取組姿勢など)	①利用者の安全を第一に考え必要経費に優先順位をつけ、管理的経費の削減に努めているか。	A	A	A
		(2)指定管理経費の設定額	①収支予算書との妥当性はどうか。	A	A	A
		(3)指定管理経費の妥当性(サービスとコストのバランスなど)	①利用者へのサービスを低下することなく、コストの削減に努めているか。	A	A	A
		(4)収支計画の妥当性	①削減できる予算、プラスしなければならない予算について、検討、研究しているか。	A	A	A
		(5)管理経費削減の具体的方策	①事業・活動の目的の範囲内で引き続き経費の削減に努めているか。例えば啓発紙等印刷物は可能な限り、電子メール等電子媒体を取り入れているか。	S	S	S
		(6)スタッフ配置の妥当性(無理はないか)	①施設の性質上、不規則勤務にならざるを得ないが、宿直勤務は可能な限り必要最低限とし、無理のない勤務体制としているか。	S	S	S
	区分評価					A
安定性 安全性	Ⅳ 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	(1)『事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること』に対する基本的な考え方(理解度、取組姿勢など)	①職員は行政計画、教育指針等を常に把握して野外活動に取り組んでいるか。	A	A	A
		(2)当該公の施設に類似あるいは関連する事業、業務などの実績	①類似施設等の管理実績を参考にしているか。	S	S	S
		(3)経営基盤の安定性	①公益事業に精通した団体で、物的能力、人的能力、専門的能力を有しているか。	A	A	A
		(4)組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識など	①小・中・高・養護各教諭免許、社会教育・社会福祉各主事資格、防火管理・危険物取扱各免許など専門知識や経験が活かされているか。	S	S	S
		(5)スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	①より良いサービス、活動を提供するために、職員が勤務しやすい職場環境ができていますか。	S	S	S
		(6)スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	①経理・文書・施設管理・里山の自然等業務についての基本知識の他、個人情報保護・安全衛生・救命救急・接遇・人権等の研修が行われているか。	S	S	S
		(7)リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)及び対応能力(資金力、損害賠償能力など)	①野外活動エリアの安全点検・館内外の巡回・消毒清掃・衛生指導・避難訓練等を実施しているか。非常時の対応が確認されているか。	A	A	A
	(8)学校及び教育委員会との連携	①学校や教育委員会との連携がなされているか。	SS	S	S	
区分評価					S	
貢献性	Ⅴ 事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下、「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	(1)『事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下、「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること』に対する基本的な考え方(理解度、取組姿勢など)	①市の方針に基づいた計画で、地域の振興・活性化に貢献する計画となっているか。	A	A	A
		(2)地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)	①地元の法人その他の団体との連携に務めるとともに、その育成に取り組んでいるか。	S	S	S
		(3)地元の住民、高齢者、障がい者等の雇用	①施設の維持管理等のため、従事者を雇用する場合、地元の住民等の雇用に留意しているか。	A	A	A
		(4)地元での資材等の調達	①資材購入にあたっては、地元の業者による調達に留意しているか。	A	A	A
	(5)その他地元への貢献に関すること	①地元で実施される社会活動等への、積極的な参加に務めているか。	A	A	A	
区分評価					A	

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組み に対する評価</p>	<p>・小中学校、青少年団体等の来年度の利用日については、希望時期だけでなく、各団体の主たる活動や活動場所に十分配慮し、きめ細やかな調整を図っている。また、必要に応じて休所日を臨時開所するなど、柔軟な体制づくりにより、可能な限り各団体の希望に沿うよう努めている。なお、今期は小中学校や青少年団体等の代表者を委員とする「利用調整委員会」の第3回を開催し、前述の内容等を説明しながら、年間予約のあったすべての団体の利用日について承認を得ている。</p> <p>《参考》</p> <p>第1回「利用調整委員会」(5/27):利用調整原則、利用調整方法の承認 第2回「利用調整委員会」(8/28):市内小中学校及び特別支援学校の次年度利用日の承認 第3回「利用調整委員会」(11/1):市外小中学校及び青少年団体等の次年度利用日の承認</p> <p>・各団体の指導者には、利用日1カ月ほど前に実施する「事前打合せ会」に出席を依頼している。例えば5団体以上が同泊される場合も数多くあるが、この「事前打合せ会」を通して、各団体の指導者から宿泊室、活動場所等の要望を丁寧に聞き取り、公平・公正な調整を図っている。</p> <p>・各団体から体育館、ラグビー・サッカー場等、当施設が直接管理運営していないスポーツ施設の利用希望があった場合も、関係機関との連絡を密に行い、円滑な調整を図っている。なお、上記2点の内容も含め、利用者から公平性を欠くといった指摘は、一切受けていない。</p> <p>(I-1)-①</p> <p>・主催事業の募集については、チラシ配布やホームページ、「広報ぎふ」、ラジオ、雑誌等、各種媒体を積極的に活用し、幅広く市民に周知を図っている。また、今期は出前講座、事業協力などを数多く実施しており、それらの機会を通して他施設の利用者へも直接呼びかけを行っている。</p> <p>(I-1)-②</p> <p>・「自然の家だより」を定期的に発行したり、岐阜市自然・環境活動情報サイト「ぎふネイチャーネット」に積極的に投稿したりするなど、身近な自然や自然の家の活動への関心を高めるための情報発信に努めている。</p> <p>・利用に関するQ&A、利用者アンケートの結果、主催事業の募集及び活動報告等をホームページに掲載し、積極的に施設及び各種事業の紹介・啓発を行っている。</p> <p>・「季節の散策マップ」を岐阜ファミリーパーク内休憩所に設置し、公園を訪れる多くの市民に活用されている。なお、今期の「季節の散策マップ」の利用枚数総計は514部であり、昨年度同期間の総計を120部上回っている。</p> <p>・当年度利用された団体と9月下旬までに次年度の利用希望のあった団体に対しては、「利用希望調査報告書」(希望時期の記入用紙)を送付し、次年度の呼びかけを確実にしている。また、各団体の要望に応じて宿泊室、活動場所を提供するためには、利用時期の分散化を図る必要があり、ホームページや電話対応等を通じて、その啓発を積極的に行っている。</p> <p>(I-3)-①</p> <p>・主催事業では、PDCAサイクルに基づき、すべての事業で活動プログラムの改善を図っている。今期は特に「活動プログラム開発研修」を自主的に実施したり、各種研修会に積極的に参加したりすることで、その成果を活動プログラムの改善に活かしている。結果、すべての事業を通して、新規参加者、リピーターのいずれからも大変高い満足度を得ている。</p> <p>・受け入れ事業では、子どもたちの実態や指導・支援を行う上での課題を踏まえて、大幅に活動プログラムを改善し、新規「活動解説資料」(冊子)としてまとめている。この冊子は、各活動プログラムの進め方や安全上の留意点などを指導者・引率者にわかりやすく解説したもので、各団体の体験活動の充実につながるものと考えている。なお、冊子は当施設の活動プログラムを活用されるすべての利用団体に配布する予定である。</p> <p>(II-2)-①</p> <p>・受け入れ事業では、すべての団体に対して「利用者アンケート」への協力を依頼している。また、「事前打合せ会」、下見、当日の対応時等、多様な機会に直接、要望・苦情等の聞き取りを行っている。アンケートの結果、聞き取りの結果については、職員会議、「朝の打合せ会」等で共通理解を図り、改善に努めており、職員対応等の高い評価につながっている。</p> <p>・主催事業では、すべての事業で「参加者アンケート」を実施し、その結果については、職員会議で共通理解を図っている。また、次回事業の改善、向上に向けて、その結果を十分反映することにより、各事業の高い満足度につながっている。なお、3月より、利用者の評価(事業への満足度、職員対応等)をより的確に把握するため、主催事業における「参加者アンケート」、上記の受け入れ事業における「利用者アンケート」のいずれも改善を図り、その結果を各事業運営の向上に向けて、効果的に活用している。</p> <p>・施設だけでなく、岐阜ファミリーパーク全体への要望・苦情等も把握するため、岐阜市みどりのまち推進財団(公園管理者)、岐阜ファミリーパーク体育館との三者会議を実施し、改善すべき内容は、三者が連携して対応している。</p> <p>(II-3)-①</p>
--------------------------	--

今期の取組み
に対する評価

・すべての団体のすべての活動に職員を配置し、適切な指導・支援を行っており、特に野外炊事や川での活動には、より安全性を高めるため、複数の職員を配置している。
・天候等の理由により、各団体の活動が大きく変更される場合もあるが、「朝の打合せ会」等で、指導・支援体制の調整、確認をし、適切に職員を配置している。
・準備段階である「事前打合せ会」や下見等においても、すべての団体に職員を配置し、指導者への適切な指導・支援に努めている。
・宿泊学習への対応と並行し、遠足、社会見学等で岐阜ファミリーパークを訪れる団体に対しても、各種プログラムを提供し、積極的な指導・支援を行っている。
・**利用団体以外にも広く市民にサービスを提供するため、2月より、「こどもスマイルステーション」(※)としての役割も担っている。**

(※主に登下校時の小中学生が天候の急変やトイレで困ったとき、体調不良のときなどの際に施設へ気軽に立ち寄れるよう、当事業団が管理運営する15施設に設置している。)

(Ⅱ-4)-①)

・12月～2月期間の宿泊団体数10団体増(前年度比)を施設目標の一つに掲げ、多種多様な啓発活動に取り組んだ結果、この期間の宿泊団体数が大幅に増加している。また、この結果が今期の施設稼働状況の上昇にもつながっている。

(12月～2月期間:宿泊団体数17団体増 施設稼働状況:前年度下半期88.6%⇒今期96.3%)

〈参考〉

主な啓発活動

- ・ホームページに12月～2月期間の空室状況を掲載
- ・出前講座、事業協力などを数多く実施し、他施設の利用者へ直接呼びかける
- ・近隣の大学に出向き、サークル活動等での利用を呼びかける
- ・電話等の問い合わせに対する「もう一押し運動」(※)の推進

(※希望日が満室等の理由で利用できない団体に対し、12月～2月期間の活動の魅力を啓発)

(Ⅱ-5)-①)

・業務要求水準の例に示された電子メール等、電子媒体の活用については、特に「自然の家だより」の発行や「ぎふネイチャーネット」への投稿など、自然情報の発信(別紙1のとおり)において、積極的に実践している。また、宿泊室の扉や網戸の補修、看板の取替え、ハチの巣の駆除、教材の準備、加工など、多岐にわたる作業を可能な限り自前で行い、大幅な経費縮減を図っている。

・各職員が類似施設での研修や「自己課題」に積極的に取り組むことにより、自然体験活動に関わる高い専門性を有しており、外部講師に依頼することなく、質の高い事業を展開している。

(Ⅲ-5)-①)

・利用団体が宿泊される場合は、防犯・防災等、安全面の観点から必ず宿直員を配置している。ただし、宿直員は必要最低限(原則1名)とし、無理のないよう8名の職員がローテーションで担当している。また、宿直員に特段の負担がかからないよう、利用団体数が多い日や活動対応が多岐に及ぶ日は、夜間勤務の職員をその補助として適切に配置している。なお、夜間の火災、地震等に備えた非常時の対応については、宿直員、警備員、各利用団体の指導者・引率者が宿泊し、非常時対応マニュアルに基づく体制づくりを行っている。

・泊をともなう主催事業については、必要最低限の宿直員のみ(事業担当者と養護教諭資格を有した職員のみ)を配置しており、安全性を確保しつつ、事業運営の効率化を図っている。

・各職員が無理なく計画的に業務を行えるよう、「年間予定表」、「月間予定表」、「週間予定表」を早期に作成し、周知を図っている。

(Ⅲ-6)-①)

・当事業団で毎月開催している施設長会や、偶数月に開催している経営会議を通して、関連施設(ドリームシアター岐阜、市生涯学習/女性センター等)の管理実績を把握し、参考にしている。

・11月に国立若狭湾青少年自然の家で開催された「東海北陸地区運営研究大会」に職員を派遣し、他の青少年教育施設職員と主催事業の企画運営や各施設の特色を活かした体験活動について、研究協議を行っている。なお、研究協議の成果は、職員会議等を通して、職員全員で共有し、各事業の運営に役立てている。

・上記以外にも職員研修または講師として、他の自然の家4所に職員を派遣しており、研修内容だけでなく、各施設の事業運営の在り方を学ぶ機会としている。

(Ⅳ-2)-①)

今期の取組み
に対する評価

・小・中・高・養護各教諭免許、社会教育主事資格、防火管理・危険物取扱各免許、オリエンテーリングインストラクター、キャンプインストラクター、ラジオ体操指導員等の資格を有し、専門知識や経験を十分に活かしている。また、野外活動を主とする施設の特性上、職員全員が救命技能(普通または上級)を有し、急病人等の対応に備えている。

・**基本的な資格(甲種防火管理者等)から専門性に関わる資格(キャンプインストラクター等)まで、施設運営上必要な資格全般を改めて整理(資格名・内容・利点・効果等)し、各職員の計画的な資格取得及び保有する資格者の増員に努めている。**

・動植物に対する知識や自然体験活動のノウハウを備えた人材が多数従事しており、その専門性を指定管理業務の各事業及び自主企画事業に十分に活かしている。**特に今期は共催事業、出前講座、事業協力を数多く実施しており、施設内にとどまらず、その専門性を活かす場を広げている。**

・**木工備品の製作及び施設修繕を行う専門職員が従事しているため、例えば、岐阜ファミリーパーク体育館の体育倉庫整理棚を製作するなど、その技能を活かした関係機関への協力も行っている。**

(IV-(4)-①)

・職員が働きやすい職場環境を整えるため、当事業団の策定した行動計画に基づき、下記の目標の達成に努めている。

目標1: 女性職員の育児休業取得率80%以上

目標2: 育児休業、産前産後休業等、諸制度に関する研修会への積極的な参加

目標3: 年次有給休暇取得の推進

・1ヶ月単位の変形労働時間制を取り入れ、無理のない勤務体制を編成するとともに、毎週日曜日を「ノー残業デー」とし、職員全員がこれを遵守している。

・当事業団はリフレッシュ休暇(心身の健康維持及び家庭生活の充実等のための特別休暇)の取得を推進しており、当施設においても対象となる職員全員がこれを取得している。

(IV-(5)-①)

・職員研修については、上半期に個人情報保護・安全衛生・救命救急・接遇等、基本的な資質に関わる研修を実施しており(別紙1のとおり)、今期は「朝の打合せ会」、職員会議等でその内容を当施設での具体的な事例に照らし合わせながら、繰り返し確認し合っている。

・**今期は特に職員の専門性を高めるため、「アウトドアゲーム指導法講習」、「キャンプインストラクター講習」等、活動プログラムの作成方法や指導・援助の在り方などを学ぶ研修に職員を積極的に派遣している。また、自主的に「活動プログラム開発研修」を実施しており、活動プログラムの開発だけでなく、職員の企画力・指導力の向上にも役立てている。**

・**例えば、愛知県(あいち小児保健医療センター)で実施された「アナフィラキシー対応研修」に職員を派遣するなど、今日的課題を踏まえた研修にも積極的に参加している。なお、各研修の終了後には、必ず報告会を実施しており、職員全員でその成果を共有できるよう努めている。**

(IV-(6)-①)

・「利用調整委員会」(11月)、「運営審議会」(2月)を通じて、学校及び教育委員会の各代表者に対して、施設の成果や課題、来年度利用に関する内容などを説明し、いただいた意見、要望等を施設経営に十分活かしている。

・**10月以降に利用されたすべての市内小学校に依頼し、児童を対象としたアンケート調査を実施している。この調査は、野外学習における教育効果を把握するためのものであり、分析結果を次年度の計画立案に活かす準備を進めている。**

・岐阜大学、岐阜女子大学、岐阜聖徳学園大学等から、多くの学生が施設ボランティアとして参加し、主催事業、施設整備等、多方面で活躍している。(平成25年度、新たに24名が登録し、全体登録数は83名)

・科学教育の振興を目的に11月に開催された「ぎふサイエンスフェスティバル」には、岐阜市教育委員会、岐阜市科学館等とともに当事業団も共催しており、当施設は生物分野での出展をしている。

(IV-(8)-①)

・市内小中学校、市内青少年団体の来年度の利用日については、優先的に調整を図り、その育成に寄与している。

・市内小学校、市内公共施設(団体)からの依頼を受け、積極的に出前講座を実施しており(別紙1のとおり)、その育成に寄与している。

・「事前打合せ会」等を通して、各団体に隣接する体育館(「岐阜ファミリーパーク体育館」)の効果的な活用方法と呼びかけ、その利用者の拡大に寄与している。

・岐阜ファミリーパーク体育館、岐阜市みどりのまち推進財団(公園管理者)との共催で3月に実施した「ファミリーフェア」では、**ドリームシアター岐阜、市生涯学習/女性センター、岐阜市消防本部等とも連携して事業を行っており、各施設(団体)の日頃の活動や取組みを啓発する場ともなっている。**

(V-(2)-①)

※その他の評価項目については、事業計画書の内容どおり履行している。

前回までの意見を踏まえた取組み状況	<p> 所管課の意見 ・今後も、安全対策や子どもの実態等の今日的な課題をふまえた工夫、改善を加えながら、施設運営を充実させていくことを期待する。 ⇒ 野外活動エリアの安全点検、館内外の巡回、衛生指導等、施設運営上、基本的な安全対策については、例えば、散策道の点検回数を増やす、館内外の点検項目を見直す、利用者への啓発(手洗い、うがいの励行など)の機会を拡大するなど、その強化に取り組んでいる。 ⇒ 活動中の安全指導については、活動ごとに留意点や説明方法などを見直し、改善を図っている。なお、指導者・引率者に対しても安全指導の徹底を図るため、今期作成した新規「活動解説資料」(冊子)にその内容を反映している。 <u>(IV-(7)-①)</u> ⇒ 子どもの実態を踏まえて大幅に活動プログラムの改善を図っており、上記にも記載した新規「活動解説資料」(冊子)にまとめている。この冊子は、各活動の進め方や安全上の留意点などを指導者・引率者にわかりやすく解説したもので、各団体の体験活動の充実につながるものと考えている。 <u>(II-(2)-①)</u> </p> <p> ・冬期の施設利用者の拡大をさらに図っていきたい。 ⇒ 受け入れ事業については、《今期の取組みに対する評価》に記載したとおり、多種多様な取り組みを行った結果、大幅に宿泊団体数が増加している。 (12月～2月の宿泊団体数:47団体 対前年度比17団体増) ⇒ 主催事業の募集については、チラシ配布、ホームページ、「広報ぎふ」、ラジオ、雑誌等、各種媒体を積極的に活用しており、特に12月～2月期間に実施した事業については、下記の機会に利用者(参加者)に直接参加を呼びかけ、参加者の拡大を図っている。 ・出前講座、事業協力などを通して、他施設の利用者に ・利用団体の退所時、「退所式」で利用者に ・各主催事業の終了時、「終わりの会」で参加者に (12月～2月の参加者数:400人 対前年度比21人増) <u>(II-(5)-①)</u> </p> <p> 評価委員会の意見 ・各評価項目の具体的な業務要求水準に従い業務が履行されている。 ⇒ 多くの評価項目で業務要求水準以上の成果を上げることが、市民サービスの向上につながるものと考え、今期は特に下記の評価項目に関わる業務の充実を図っている。なお、その具体的な取組みについては、《今期の取組みに対する評価》に記載している。 ・利用促進、利用者増の方策(冬期を含めた利用の促進) <u>(II-(5)-①)</u> ・スタッフ配置の妥当性(無理のない勤務体制づくり) <u>(III-(6)-①)</u> ・スタッフの人材育成の方策(各種研修会への積極的な参加) <u>(IV-(6)-①)</u> </p>
-------------------	--

今後の取組み	<p>・市内外の小中学校及び青少年団体等の次年度の利用日については、「利用調整委員会」を年3回(26年度上半期は6月と8月を予定)開催し、学校関係者や青少年団体関係者の意見・要望を取り入れながら、公平、公正に調整を図る。 (Ⅰ-1)-①)</p> <p>・主催事業については、広く市民に参加の機会と周知を図るため、下記の方策に取り組む。 ・市内小中学校及び関係機関へのチラシ、ポスター配布 ・「広報ぎふ」やラジオ、雑誌など、積極的なメディア媒体の活用 ・利用団体や主催事業参加者など、施設利用者への啓発 ・共催事業、事業協力、出前講座などでの啓発 ・事業の魅力をわかりやすく伝えるホームページの工夫 (Ⅰ-1)-②)</p> <p>・自然の家の3つの願い「ほほえみ、なかま、自然」の具現化を図るため、下記の事業において、それぞれ目標数値を設定し、その達成に努める。 ・受け入れ事業:70%以上 「自然の家利用(野外学習)にかかる調査」を活用 ・主催事業:90%以上 「参加者アンケート」を活用 (Ⅱ-1)-①)</p> <p>・子どもたちの実態を踏まえ、継続して活動プログラムの改善と充実に努める。 ・主催事業では、PDCAサイクルに基づき、活動内容の改善及び新規プログラムの導入を積極的に行い、下記の事業において高い満足度を得ることができるよう努める。 ・家族対象の事業:「大変満足」「満足」を合わせた割合 95%以上 ・子ども対象の事業:「とてもよかった」「よかった」を合わせた割合 95%以上 ・室内用の活動プログラムや、冬季を中心とした、その季節にしかできない活動プログラムの開発に取り組み、さらなる活動の充実に努める。 ・幼児、高齢者、障がい者など、様々な利用者が活用できる活動プログラムの開発に努める。 (Ⅱ-2)-①)</p> <p>・各団体のねらいに沿った、親切で丁寧な指導・支援に努めることにより、「利用者アンケート」における「職員の対応」での高い評価(目標数値)を得ることができるよう努める。 (目標数値:職員対応への満足度 「大変満足」「満足」を合わせた割合 95%以上) ・より多くの利用者の意見や要望を施設運営に活かすため、利用団体に対し、「利用者アンケート」の提出を積極的に呼びかけ、回収率の向上に努める。(目標数値:全利用団体の70%以上) ・利用団体からの苦情や要望に対しては、職員会議や係会、「朝の打合せ会」などを通して、全職員が共有し、速やかな改善を図る。 ・ねらいを明確にし、より効果的に野外学習が実施されるよう、「自然の家利用(野外学習)にかかる調査」に基づいた分析結果を、各学校の計画立案に活かしていく。 (Ⅱ-3)-①)</p> <p>・施設の機能を最大限活かすため、利用時期の分散化を図るとともに、冬季を中心に利用団体を増やすため、下記の事項に取り組む。(目標数値:12月～2月期間の利用 対前年度比で5団体300人増) ・ホームページによる啓発 ・他施設の利用者への啓発 ・「もう一押し運動」の推進 ・より多くの市民が施設の効果・効用を享受できるよう、新たに公園利用者を対象とした自然体験活動事業を実施する。(目標数値:参加者300人以上) ・子ども会やスポーツ少年団などの青少年団体が、より充実した活動ができるよう、「青少年団体指導者研修会」の参加者拡大に努める。 (Ⅱ-5)-①)</p> <p>・利用団体の活動状況を詳細に把握し、空調設備や浴槽用ボイラー、照明器具の効率的な稼働に努め、A重油や電気の使用量の削減を図る。 (Ⅲ-5)-①)</p> <p>・今期、基本的な資格(甲種防火管理者等)から専門性に関わる資格(キャンプインストラクター等)まで、施設運営上必要な資格全般を改めて整理(資格名・内容・利点・効果等)しており、これを踏まえて各職員が計画的に資格を取得する。 (Ⅳ-4)-①)</p>
--------	--

<p>今後の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高めるため、あるいは今日的な課題に対応するため、県内外を問わず、様々な分野の研修に、積極的に参加する。 ・施設内においても、自主的に「活動プログラム開発研修」を実施するほか、職員全員が「自己課題」に継続して取り組む。 ・研修後は、報告会を実施し、研修内容の共有を図りながら、職員全体の資質向上と指導力・企画力の強化に努める。 (目標数値:全職員年間6回以上参加) (IV-(6)-①) ・施設及び各種活動の安全対策を強化するため、下記の取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の安全マニュアルの見直し、改善 ・追加項目・内容の検討(子どもの実態や今日的な課題を踏まえて) ・上記2点の結果を反映した新規安全マニュアルの作成 (IV-(7)-①) ・他施設(ドリームシアター岐阜、青少年会館等)の利用者など、直接、当施設の利用のない市民対しても、幅広く活動プログラムを提供できるよう、共催事業や事業協力、出前講座を積極的に実施する。(出前講座の実施目標:年10回以上) ・自然体験活動の指導・支援や活動プログラムの提供などにより、子ども・若者総合支援センターや特別支援学校など、関係機関との連携強化を図る。 (V-(2)-①) ・自治会連合会など、地元団体が行う行事(イベントや清掃活動など)に関する情報を把握し、これらに職員が参加したり、活動プログラムを提供したりすることで、地域の活性化に寄与する。 (V-(5)-①)
---------------	---

●所管課の意見

- 「指定管理者の選定基準に基づく評価」・「指定管理者の取組に対する自己評価」について
- ・「I-(1)-①・(3)-①、II-(2)-①・(3)-①・(4)-①・(5)-①、III-(5)-①・(6)-①、IV-(2)-①・(4)-①・(5)-①・(6)-①、V-(2)-①」について、「指定管理者の取組に対する自己評価」のとおりとする。
 - ・IV-(8)-①について、学校や教育委員会と連携がなされているが、特に顕著な実績とまでは言えないため、「S」とする。
 - ・その他の評価項目については、事業計画書の内容通り業務が履行されている。
- 利用者の増減について
- ・開所日数、団体利用可能日数、団体利用実績日数などが、H25上半期より減少し、利用状況が減っているように見えるが、冬季による休館日が上半期より増加したため、利用団体数、利用者数そのものは変化していない。
- 今後の方針について
- ・今後も、安全対策や子どもの実態等の今日的な課題をふまえた工夫、改善を加えながら、施設運営を充実させていくことを期待する。
 - ・冬期の施設利用者の拡大をさらに図っていきたい。

●指定管理者評価委員会の意見

- ・各評価項目の具体的な業務要求水準に従い業務が履行されている。